

平成 31 (2019) 年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立平石北小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成 31 (2019) 年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成31(2019)年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年 国語 27人 算数 27人 理科 27人

第5学年 国語 27人 算数 27人 理科 27人

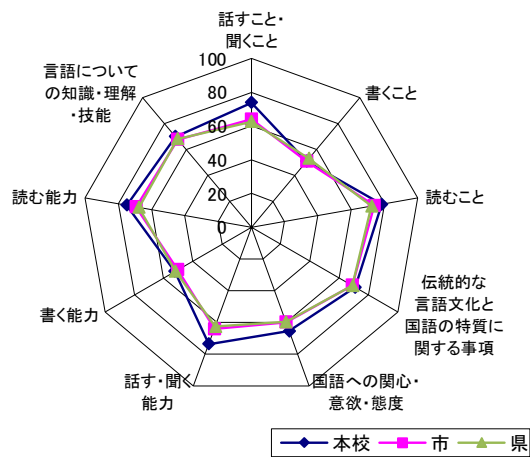
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立平石北小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	73.7	64.0	62.5
	書くこと	50.9	50.9	53.1
	読むこと	78.4	73.9	72.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	71.0	68.9	69.1
観点	国語への関心・意欲・態度	65.5	59.9	59.7
	話す・聞く能力	73.7	64.0	62.5
	書く能力	52.4	50.4	52.0
	読む能力	74.9	69.3	67.6
	言語についての知識・理解・技能	70.1	67.9	68.2



★指導の工夫と改善

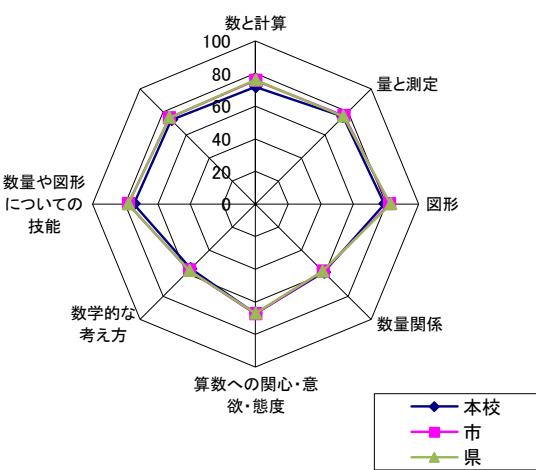
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市の平均より9.7ポイント上回っている。 ●記述式の問題において、無解答率が10.0ポイント以上あった。自分の考えを問われる問題に苦手意識をもつ児童が一定数いることがわかる。 ○すべての問題において、市の平均を上回る結果となった。5つの設問の内、4つの設問において、市の平均を10ポイント以上上回っている。	・引き続き、ペア学習やグループ活動を効果的に取り入れ、自分の考えを伝え合う活動を随時行うようにする。 ・自分がなぜそう考えたか、理由を挙げながら筋道を立てて分かりやすく伝える指導を充実させ、みんなの前で意見を発表することに慣れさせる。
書くこと	平均正答率は、市の平均と同じ結果となった。 ○2段落構成で文章を書く問題では、市の平均を3.9ポイント上回った。 ●書こうとすることの中心を明確にして文章を書く問題では、市の平均を6.4ポイント下回っている。また、最後の作文の問題の無解答率が29.6ポイントであることから、時間内に全ての問題を解くことができない児童が一定数いることがわかる。	・日頃から、与えられた時間内に問題を解く訓練を行っていく必要がある。単元テストだけでなく、授業中にも、自分の考えをまとめ、書く作業を、時間制限を設けながら随時取り入れていく。 ・文章を書く上で、内容を確認しながら順序良くまとめたり、効果的な表現の仕方を考えたりできるような指導を工夫する。
読むこと	平均正答率は、市の平均より4.5ポイント上回っている。 ○段落の役割を理解して、文章の内容を的確に読み取る問題では、市の平均を9.8ポイント上回った。また、目的に応じて場面の様子と登場人物の気持ちを読み取る問題では、8.2ポイント上回った。 ●登場人物の気持ちを読み取る問題では、市の平均を3.4ポイント下回っている。また、説明文の内容を読み取る問題の無解答率が7.4ポイントであった。	・問題文を読むことに抵抗がなくなるよう、引き続き日常生活において読書の時間を設定することで本に親しみ、長文に触れる機会を増やしていく。 ・与えられた文章から必要な情報を抜き出すことができるよう、引き続き話の筋道をたどりながら読むことの指導を繰り返し行う。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	平均正答率は、市の平均より2.1ポイント上回っている。 ○特にローマ字のつづりの問題では、29.4ポイント、漢字を書く問題の「整える」では、14.6ポイント、市の平均を上回っている。 ●文の構成(主語と述語)を答える問題では、市の平均を11.0ポイント下回っている。また、漢字を読む問題の内、「薬品」「悲しい」で、市の平均を10ポイント以上下回った。	・パソコンを活用した授業の際に、ローマ字入力を行うことで、ローマ字に関する理解は定着してきた。各教科でパソコンを活用した授業を充実させ、更に確実に定着させていく。 ・述語は理解しているが、主語を正しく選択できない児童が半数以上いる。漢字の読み書き同様、引き続き宮っ子ステップアップシートや国語ドリル等を継続して活用し、学習内容の定着を図っていく。

宇都宮市立平石北小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	71.8	75.8	76.1
	量と測定	75.7	76.5	76.0
	図形	79.0	82.1	82.7
	数量関係	59.3	58.4	58.2
観点	算数への関心・意欲・態度	67.2	67.4	67.0
	数学的な考え方	56.3	57.5	57.7
	数量や図形についての技能	74.7	78.2	78.1
	数量や図形についての知識・理解	73.1	74.8	74.9



★指導の工夫と改善

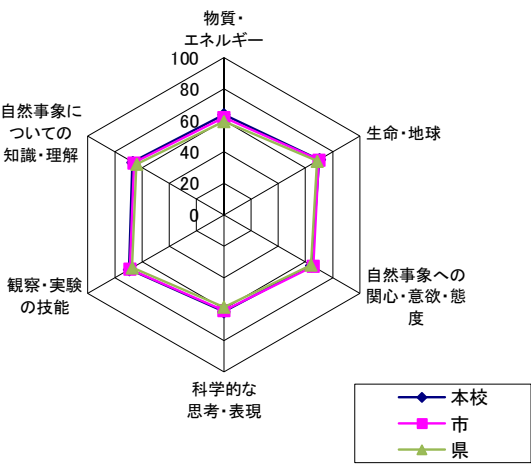
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は市平均より低くなっている。 ○2位数÷1位数で余りなしの問題では市平均より4.1ポイント上回った。 ●かけ算の筆算で出てくる数の意味を理解する問題は、正答率は11.1%で、市平均より19.0ポイント下回った。 ●3位数÷3位数=3位数(繰り下がりあり)の問題では、市平均を16.3ポイント下回った。	・ドリル、プリント、フォローアップシートなどを用い、繰り返し学習し正しい四則計算のやり方が定着するようにする。 ・朝の学習、家庭学習の内容を工夫し計画的に計算練習を取り入れ習熟を図る。また、単なる計算だけでなく、立式の意味を考える習慣を付けていく。
量と測定	平均正答率は市平均よりやや低くなっている。 ○身近にあるものの重さの単位について理解する問題では、市平均を4.2ポイント上回った。 ●ある時刻から一定時刻が経過する前の時刻を求める問題では、市平均を7.9ポイント下回った。 ●はかりの目盛りの読み方の問題では、市平均を6.0ポイント下回った。	・重さを実際に量ったり時刻や時間を読んだりする活動を取り入れ、日常生活の中からも重さや時間の感覚を身につけさせる。 ・長さや重さの学習では、実物を用意して見せたり持たせたりして実際の量を体感させる。また時間の学習では、ゲームを取り入れ時間の長さを感じ覚的に理解させる。
図形	平均正答率は市平均より低くなっている。 ○円の半径から球が2個入った箱の辺の長さを求めることができる問題では、4.2ポイント上回った。 ●正三角形を作図する問題では、市平均を11.3ポイント下回った。	・定規やコンパスを使って図形を正確にかく内容では、拡大図やICTの利用やT・Tによる個人差に応じた個別指導に重点をおき、定規やコンパスなどの正しい使い方を指導する。 ・円や球の直径や半径の特徴を正しく理解できるよう、実際に長さを測り理解を深める。
数量関係	平均正答率はやや高くなっている。 ○□を使って減法の式に表す問題では、市平均を6.7ポイント上回った。 ●棒グラフを書くことができない理由を説明する問題では、市平均より3.5ポイント下回った。37.0%の児童が無回答であり、正答率は18.5%だった。	・グラフの見方は社会・理科・総合的な学習の時間でも取り扱い、縦軸・横軸の意味を正しく理解しグラフを読みとれるよう指導する。 ・授業の中で筋道を立てて書いたり、話す機会を作り、自分の考えをわかりやすく説明できるようにする。

宇都宮市立平石北小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	63.7	61.9	59.4
	生命・地球	70.1	69.8	68.5
観点	自然事象への関心・意欲・態度	64.5	65.6	63.9
	科学的な思考・表現	61.6	61.0	58.8
	観察・実験の技能	69.6	69.0	67.4
	自然事象についての知識・理解	67.1	66.1	64.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	平均正答率は、市平均を上回っている。 ○2つのおもちゃを比較して、ゴムのはたらきについて推測する問題の正答率は63.0%で、市平均を7.4ポイント上回った。 ○種類の異なる同体積の物体の正体を情報を読み取って推測する問題の正答率は55.6%で、市平均を8.7ポイント上回った。 ○電気の通り道に関する問題の正答率はどの問題も市平均を上回った。特に、回路についての正答率は、市の平均より28.5ポイント上回っている。 ●磁石の性質についての問題では、実験結果からわかる磁性について選択する問題の正答率は29.6%で、市平均を20.2ポイント下回った。誤回答を選んだ児童が51.9%と多い。	・フォローアップシートを活用して既習事項を復習し、再度定着を図る。 ・観察や実験の技能定着のために、実験の前に目的や方法について十分に理解させ、目的意識をもって実験に取り組めるようにする。 ・実験や観察の結果からわかることなど、考察を自分の言葉でまとめる時間を設け、自然の規則性や現象について理解を深められるようにする。
生命・地球	平均正答率は、市平均とほぼ同じである。 ○ダンゴムシを正しく観察する問題の正答率は96.3%で、市平均を10.0ポイント上回った。 ○植物の育つ順序を答える問題の正答率は63.0%で、市平均を13.6ポイント上回った。 ○モンシロチョウをの育つ様子について選択する問題の正答率は85.2%で、市平均を11.1ポイント上回った。 ○温度計を正しく読む問題の正答率は、81.5%で、市平均を11.4ポイント上回った。 ●ホウセンカの種を正しくまいて世話する方法を選択する問題の正答率は14.8%で、市平均を11.7ポイント下回った。誤回答を選んだ児童が85.2%と多い。 ●モンシロチョウがたまごから成虫になるまでのおよその期間を問う問題の正答率は48.1%で、市平均を10.4ポイント下回っている。 ●太陽とかげの動きについて説明する言葉を選ぶ問題では、誤回答を選んだ児童が51.9%と多い。正答率は25.9%で、市平均を5.7ポイント下回っている。	・昆虫や植物に興味をもつ児童は多い。フォローアップシートを活用し、昆虫の体のつくりなどについてもう一度全員で確認し、再度定着を図る。 ・問題出題傾向に慣れるために、朝学習の時間や宿題等で、復習プリント等で繰り返し学習する機会をもつようにする。

宇都宮市立平石北小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校の宿題をしている」の本校の肯定的回答の割合は88.9%である。また、「家で、自分で計画を立てて勉強している」は肯定的回答が85.2%で市の平均を17.4ポイント上回っている。家庭学習については、提出率も高く、ほとんどの児童が習慣化することができており、学校生活も落ち着いているため、このような結果につながったと思われる。今後も一人一人の取り組みを認め、賞賛していくことでさらにやる気が向上するようにする。

○1か月に、何冊ぐらい本を読みますか。という設問に対しては、5冊以上読んでいる回答の割合が市の回答の割合を10.8%上回っている。朝の読書や読み聞かせなどの日々の読書活動が定着し、意欲喚起につながっている様子が見られる。

○「家の人と学校のできごとについて話をしている」「自分は家族の大切な一員だと思う」「家でのきまりや約束を守っている」の本校の肯定的割合はいずれも85.0%を超えており、家族内で良好な関係が築けていることが分かる。今後も保護者との連携をより図り、児童理解を深めていく。

●「家で、学校の授業の予習をしている」「家で、学校の授業の復習をしている」の本校の肯定的回答の割合はいずれも市の肯定的回答割合を下回っており、課題が見られる。「家で学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」の肯定的回答の割合は市の肯定的回答割合を上回っているが、62.9%であり、今後はより明確に、予習・復習の重要性、自主学習の方法について明確に伝えていく必要がある。進んで予習や復習に取り組んでいる児童もいるので、その取り組みをクラス全体に紹介し、広げていく。

●「できるだけ自分ひとりの力で課題を解決しようとしている」は12.5ポイント、「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる」は9.7ポイント、市の肯定的回答の割合を下回っている。「グループなどの話し合いに自分から進んで参加している」は2.9ポイント、市の肯定的回答の割合を下回っている。このことから、家庭学習や調べ学習など、自分の力で取り組む活動や、話し合いで自分の考えを伝えたり、友達と協力しながら問題解決していく活動が得意と思っている児童が少ないといえる。今後はじっくり自分で考える時間を大切にしながら、友達と意見を出し合い解決していくペアやグループでの話し合い活動も多く取り入れ、学習を進めてきたい。

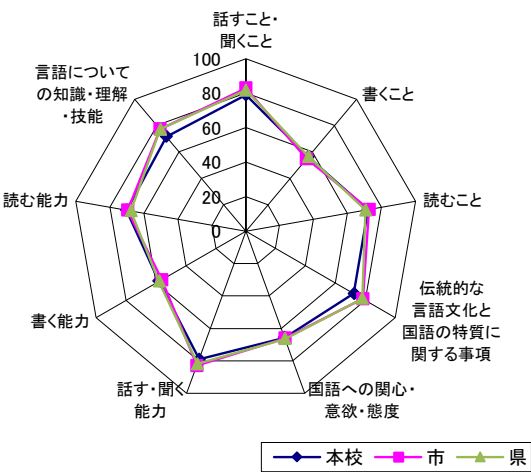
●「自分はクラスの人の役に立っていると思う」の本校の肯定的割合は市の肯定的割合は、64.0%と低い。また、「自分にはよいところがあると思う」の本校の肯定的割合は70.4%で市の肯定的割合を12.0ポイント低い。今後、さらに「ありがとうカード」の活用を図り、話し合い活動、係活動をさらに工夫し、充実させていくことで、一人一人のよいところを明確にし、そのよさを学級全体での話し合い活動や係活動において生かしていけるようにする。エンカウターの活動も引き続き取り入れていく。

●「毎日、朝食を食べている」「早寝、早起きを心がけている」の肯定的割合は、いずれも75.0%を上回っているが、個人差が見られる。今後、懇談会や学年だより等を通じて、学習面だけでなく、健康面の情報を保護者とし共有していく。

宇都宮市立平石北小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	79.0	82.9	81.8
	書くこと	56.2	54.8	56.5
	読むこと	72.0	72.6	70.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	72.5	78.4	78.1
観点	国語への関心・意欲・態度	65.7	66.0	66.4
	話す・聞く能力	79.0	82.9	81.8
	書く能力	58.1	56.3	57.9
	読む能力	70.1	69.5	67.6
	言語についての知識・理解・技能	71.6	77.2	77.1



★指導の工夫と改善

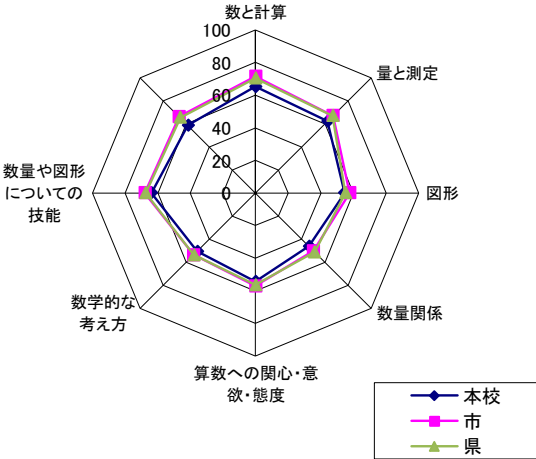
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市平均よりやや下回っている。 ○司会の役割として、参加者の発言の共通点をまとめる問題は、市平均より6.0ポイントほど上回っておりよくできている。 ●話し方の工夫に注意して聞き取る問題は、市平均より20.0ポイント下回っている。	・授業の中で話し合い活動をする機会を多く設けていく。その際、話すポイントと聞くポイントをしっかり押さえて指導する。 ・話し合いの時は、役割分担に気を付けたり、いろいろなテーマを設定したり意図的に指導していく。 ・話し手の意図を考えながら、大切なことを聞き逃さないように聞く態度を養う。
書くこと	平均正答率は、市平均よりやや上回っている。 ○書こうとすることの中心を明確にして文章を書く問題は、市平均より15.0ポイント上回っておりよく書けている。 ●指定された長さで文章を書く問題では約6ポイント、自分の考えが明確になるように具体的に文章を書く問題は17.0ポイント下回っている。	・各教科や特別活動などにおいて、自分の考えをまとめて発表する場面を継続的に設けていく。 ・文章の要点や自分の意見をまとめたりするときに、字数や段落を指定して書く機会を増やしていく。
読むこと	平均正答率は、市平均とほぼ同じである。 ○場面の様子を読み取る問題は、市平均より5.0ポイント上回っている。 ●説明文の内容を的確に読み取る問題は、8.0ポイント下回っている。	・物語文の学習では、どの部分から場面の様子や登場人物の気持ちなどが想像できるか叙述に基づいて考えられるよう指導していく。 ・説明文の学習では、序論・本論・結論の基本構成を押さえて、要点をまとめながら筆者の言いたいことや段落相互の関連が読み取れるように指導していく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	平均正答率は、市平均より下回っている。 ●漢字の書き「底」の問題では、市平均より約12.0ポイント下回っており、無回答率も22.2%あった。 ●連用修飾語を選ぶ問題では、市平均より13.0ポイント下回っている。 ●漢和辞典を使う問題では、市平均より8.0ポイント下回っている。	・宮子ステップアップシートや漢字ドリル等を継続して活用し、漢字や文の構成など学習内容の定着を図っていく。 ・漢字の読み方や言葉の意味が分からないときには、漢字辞典や国語辞典を使って調べる習慣を身に付けさせていく。

宇都宮市立平石北小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	65.3	71.5	70.4
	量と測定	62.3	67.0	66.9
	図形	54.6	57.6	55.0
	数量関係	46.3	50.2	51.1
観点	算数への関心・意欲・態度	54.3	57.0	56.3
	数学的な考え方	50.7	53.8	53.6
	数量や図形についての技能	63.9	68.0	67.4
	数量や図形についての知識・理解	58.7	66.3	65.4



★指導の工夫と改善

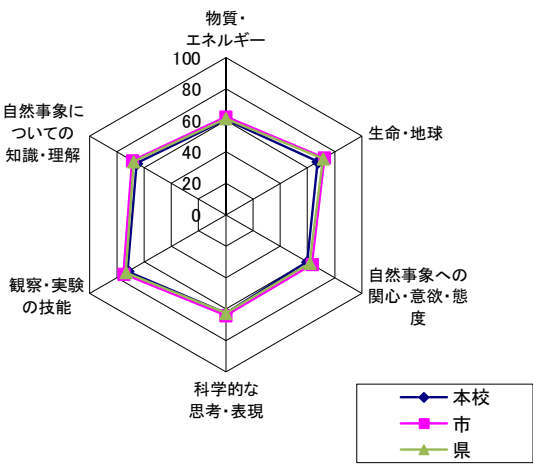
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市平均を下回っている。 ●真分数+帯分数＝帯分数の同分母分数の計算では22.6ポイント市の平均を下回った。 ●帯分数－真分数＝帯分数の同分母分数の計算では16.1ポイント市の平均を下回った。 ●倍とわり算の文章問題を表した図の構造をとらえる問題では17.6ポイント市の平均を下回った。 ○2けた÷1けた＝1けた(余りあり)の問題では、正答率100%で市の平均より10.5ポイント上回った。	・授業の展開において、振り返りの時間を必ず設け、学習内容の定着を図る。 ・分数の定義について再確認するとともに、朝の学習の時間や授業の始まりなどを用い、分数の表す大きさを図で表したり、計算の練習を繰り返したりする。 ・計算の仕方を考える場面や文章題を扱う場面では、線分図や数直線などを書きながら考えるようにし、式と図を関連づけられるようにする。
量と測定	平均正答率は、市平均を下回っている。 ●身近にあるもののおよその面積を理解する問題では16.6ポイント市の平均を下回った。 ●長方形の面積を求める問題では、8.8ポイント市の平均を下回った。 ○複合図形で、面積の求め方や図から式を求める問題では、9.3ポイント市の平均を上回った。	・身の回りのものの面積や面積の求め方については、視聴覚教材を活用したり、自らが操作する機会を取り入れたりしながら、学習内容の定着を図る。 ・分度器の正しい使い方や目盛りの読み方、180度より大きい角度の求め方を復習し、繰り返し問題を解くことで定着を図れるようにする。
図形	平均正答率は、市の平均をやや下回っている。 ●直方体のある辺に垂直な辺を選ぶ問題では、市の平均を8.6ポイント下回った。 ●四角形の対角線の性質を答える問題では、市の平均を6.9ポイント下回った。 ○地図から情報を読み取り、平行四辺形の特徴を使って2つの道のりが等しくなる理由を説明する問題では、市の平均を6.7ポイント上回った。	・立体図形の問題では、実物を使ったり、視聴覚教材を取り入れたりして、立体を構成する辺や角の特徴を実感を伴って理解できるようにする。 ・実際に作図をし、四角形の特徴や対角線の特徴について復習しながらじっくり考える機会を設けたり、反復練習をしたりする。
数量関係	平均正答率は、市の平均を下回っている。 ●伴って変わる2つの数量の関係を式に表す問題では、市の平均を16.2ポイント下回った。 ●伴って変わる2つの数量の一方の値から、もう一方の値を求める問題では、市の平均を9.9ポイント下回った。 ○折れ線グラフと棒グラフを読み取り、それを根拠に理由を説明する問題では、市の平均を2.9ポイント上回った。しかし、無解答率が33.3ポイントと全ての問題の中で一番高かった。	・フォローアップシートや計算ドリル等を活用し、表を読み取ったり、表の変わり方に目を向けさせたりしながら、数量の関係を式に表す問題を解く機会を多くする。 ・表や式から読み取れたことを自らの言葉で書くことを大切に指導していく。

宇都宮市立平石北小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	60.5	62.4	61.1
	生命・地球	67.5	72.5	71.4
観点	自然事象への関心・意欲・態度	59.9	63.4	61.7
	科学的な思考・表現	62.6	64.1	62.6
	観察・実験の技能	72.2	75.2	73.5
	自然事象についての知識・理解	65.5	68.8	67.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	宇都宮市の平均を下回っている。 ○物の体積と温度に関する問題については、84.0%で市の平均より1.1ポイント上回っている。水を温めたときの正しい水面の動きを選択することができる。 ●電気のはたらきに関する問題については、46.9%で市の平均よりも0.6ポイント下回っている。電流を強くする正しい乾電池のつなぎ方の選択や説明はできているが、電流や豆電球が光る仕組みの理解について課題が見られる。	・今後も、日常生活と実験が結び付くような学習課題を設定し、実験・観察への意欲がさらに高まるようにする。 ・実験・観察の時間を十分に確保し、どこに注目すべきかのポイント(比較する、共通点・相違点を見つける、何度も繰り返すなど)を示し、目的をもって実験に臨めるようにする。 ・授業の中で、振り返りの時間を十分に確保し、学習内容の定着を図る。
生命・地球	宇都宮市の平均を下回っている。 ○天気のように気温に関する問題については、87.0%で市の平均より4.9ポイント上回っている。正しい気温のはかり方や1日の気温の変化について、観察する時間を十分に確保し、振り返りを確実に行った成果であると考えられる。 ●自然の中の水に関する問題については、53.1%で市の平均より5.1ポイント下回っている。容器にふたがあると、容器内で蒸発した水は外側に出ていかず、内側に水滴がつくことの理解に課題が見られる。	・児童の日常生活における疑問や発見を拾い、それらを導入部に取り入れ、生命・地球分野への関心・意欲が高まるよう支援する。 ・実験・観察の際には、水の動きなどを文章だけでなく、図やイラストで表すと分かり易いことを伝えることで、より理解が深まるようにする。 ・今後も、授業の中で、振り返りの時間を十分に確保し、学習内容の定着を図る。

宇都宮市立平石北小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校の宿題をしている」の本校の肯定的回答の割合は96.3%である。また、「家で、自分で計画を立てて勉強している」は肯定的回答が92.6%で市の平均を8.1ポイント上回っている。家庭での学習に関する質問に対する肯定的回答はすべての項目においていずれも市の平均を上回っていることから、おおむね家庭学習の習慣が身に付いているといえる。しかし、家庭学習の習慣については個人差も大きいので、家庭と連携を図りながら、今後さらに家庭学習での取り組みを進めていく。

○「できるだけ自分ひとりの力で課題を解決しようとしている」は4.1ポイント、「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる」は8.1ポイント、市の肯定的回答の割合を上回っている。「グループなどの話し合いに自分から進んで参加している」は17.4ポイント、市の肯定的回答の割合を上回っている。このことから、家庭学習や調べ学習など、自分の力で取り組む活動や、話し合いで自分の考えを伝えたり、友達と協力しながら問題解決していく活動が得意と思っている児童が多いといえる。今後もしっかり自分で考える時間を大切にしながら、友達と意見を出し合い解決していくペアやグループでの話し合い活動も多く取り入れ、学習を進めてきたい。

○「授業の中で、目標(めあて・ねらい)が示されている」は市の平均より3.7ポイント、「授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている。」は、10.0ポイント上回っている。「めあての提示の工夫」や「授業の振り返り」を授業の中で適切に位置付けることで、自ら進んで学習に取り組むことができた。学校全体で指導を進めてきた成果が現れていると言える。「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」は市の平均より7.9ポイント上回っている。授業の中で、一人一人の気づきや考えを深め合う多様な学習形態の工夫を行っていることを進めていきたい。

●「算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いている」は、肯定的回答の割合は92.6%で市の平均を6.6ポイント上回っている。「国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いている」でも、肯定的回答の割合は81.5%で市の平均を4.7ポイント上回っている。これらのことから、児童の意識としてはノートに自分の考えを書くことに対して得意と思っている。しかし、実際には考えを分かりやすくまとめることが苦手な児童も見られる。授業では、自分の考えをまとめる時間を確保し、考えが書けていることを認めながら、分かりやすい書き方ができている児童を取り上げするなど、どのように書けば明確に伝わるのかを示していく。

宇都宮市立平石小学校（第4・5学年共通）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
「わかった！」「できた！」「楽しい！」を実感。 ～学びにおける基礎・基本の重視と伝え合う活動の工夫～	基礎・基本が確実に身に付くように学校全体で共通理解し、全職員で朝の学習の指導に取り組んだり、自由学習コーナーを設置したりして学習の定着を図る。	「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる」の質問に肯定的回答をした4年生は62.9%5年生は85.1%だった。4年生は個人差が見られた。また、「家で、学校やじゅくの決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」の質問に肯定的回答をした4年生は62.9%、5年生は74.1%だった。学習意欲が高まり、自分から主体的に学習する習慣が身に付いてきた児童が多い。
	話し合いなどの言語活動の充実を図り、学習形態を工夫自分の考えを深め、授業の中で話し合う、発表し合うなどの伝え合う場面を意図的に設定する。	「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の質問に肯定的回答をした4年生は66.6%、5年生は88.8%だった。ペアやグループで活動など学び合いを深める学習形態を工夫してきたことで、多様な意見に触れながら自分の考えを伝えることができるようになった。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
思考力・判断力・表現力に関わる問題に課題が見られる。	習得した知識及び技能を活用しながら課題を探究し、思考力・判断力・表現力を育成する。	教科書の発展的な問題や調査問題等を用いて、学習したことを活用しながら解決を図るような問題場面や学習課題を意図的に設定する。また、問題の場면을具体的な場面に置き換えられるよう数直線や線分図に表せるようにしたり、操作的・作業的な活動を取り入れることで、実感を伴って理解させるような指導をしていく。
文章を読み取る力や最後まで読む活動に課題が見られる。	資料から読み取ったり、長文を読む問題にも根気強く取り組むことを指導する。	文章を最後まで読み取り、キーワードを見つけたり要点をまとめたりする活動を授業で取り入れる。また、初めての文章にも抵抗なく取り組んだり、最後まで読み進めたりすることができるような指導の充実を図る。教科書教材以外の文章を授業で活用したり、様々な分野の本を読んだりすることをすすめていく。